

令和4(2022)年度在外研修員一覧 ※研修期間2か月以上

研修員	仲松 優子（人文学部教授）
研修目的	フランス近世・近代史研究のため
研修先	フランス
研修期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
研修実績	フランスのクス＝マルセイユ大学の地中海および南ヨーロッパの時間・空間・言語研究所（TELLEMe）に招聘され、フランス近世および近代史の研究に従事した。特に近世・近代における工業化とジェンダーについて、同大学の研究者の協力を仰ぎながら、研究所所在地のクス＝アン＝プロヴァンスおよびフランス国内の文書館・図書館所蔵の史料や文献を収集し、研究を進展させた。また、同研究所の研究セミナーに参加して、近年の研究動向にふれる機会をもち、研究成果として研究発表を行った。これらをとおして、同研究所の所属研究者や他大学の研究者と学術交流を行い、近世・近代における南フランスの経済および社会について理解を深める機会を得ることができた。

研修員	館田 晶子（法学部教授）
研修目的	フランスにおける国籍法制の変遷 — 第三共和政以降を中心に
研修先	フランス
研修期間	令和4年4月8日～令和5年3月31日
研修実績	リヨン第2大学において憲法および外国人法・国籍法に関する調査研究を行った。そのほか、大学において開講されている憲法や基本権の授業や、学内外のいくつかの研究会を聴講した。滞在中は、2度の報告機会を得た。ひとつはリヨン第3大学で行われたシンポジウムでの基調講演であり、もうひとつはトゥール大学で行われた日欧憲法研究会での研究報告である。また、日本語での成果として、欧州人権裁判所の判例評釈、短い翻訳、日本のオンラインセミナーなどを通じてフランス法を日本に紹介することもできた。滞在中は、大統領選と国民議会選挙があり、また、スト・デモなどの社会運動にも多く遭遇し、フランス社会の政治や社会問題への関心と空気を感じることができたのも大きな収穫であった。

研修員	山本 健太郎（法学部教授）
研修目的	政党システムの変化に関する理論的探究
研修先	アメリカ合衆国
研修期間	令和4年6月29日～令和5年6月30日
研修実績	ハーバード大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラムに、アカデミック・アソシエイトとして在籍し、政党システム変化に関する理論を研究した。プログラムのウィークリーセミナーで報告する機会を得、選挙におけるミクロな論理が政党システム全体に影響を与えているのではないかという問題意識を披歴し、出席者と質疑応答を行った。他にも、最新の文献などを調査することで、近年の政治学においては、データサイエンス化が顕著であるが、そのなかでどのような点に着目して議論を組み立てれば比較優位を持てるか、といった視点で自らの研究をとらえなおす機会ともなった。また、同プログラムや他が主催するセミナーに出席したり、同じプログラムの他のアソシエイトなどとの交流により、専門外の問題についても様々な知見を得た。

研修員	大屋 定晴（経済学部教授）
研修目的	ドイツにおけるマルクス学派的政治（空間）経済学等の研究
研修先	ドイツ
研修期間	令和4年9月2日～令和5年9月1日
研修実績	<p>ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン地学・地理学部人文地理学科で、マルクス学派的政治（空間）経済学の研究を行った。「経済・都市地理学の基礎概念」にかんする講義、大学院演習等に参加し、討論会での発表、研究者との意見交換、批判理論ならびに批判的社会研究を志向する各種学会への参加をつうじて、ドイツにおけるマルクス学派についての最新の知見を得た。1990年代以降の統一ドイツでは、とりわけ「フランクフルト学派」第一世代の議論を批判的に継承することで、さまざまなマルクス学派的思潮が存続・興隆している。さらには英米圏マルクス学派経済地理学に対するドイツ語圏研究者の批判的受容も調査した。今後は、日本とドイツにおける新自由主義的グローバリゼーションについての共同研究を当地の研究者と進める予定である。</p>